

# 令和5年度第2回宮崎県総合教育会議 議事録

日 時：令和6年2月5日(月) 10:00～11:00

開催場所：宮崎県 企業局 県電ホール

出席者：宮崎県知事 河野俊嗣

教 育 長 黒木淳一郎

教育委員 島原俊英、松山竜也、木村志保、柳和枝

発言者	内 容
司会 (総合政策 部長)	ただいまから、令和5年度第2回宮崎県総合教育会議を開催いたします。本日の進行を務めます総合政策部長の重黒木です。どうぞよろしく申し上げます。 はじめに河野知事から御挨拶をお願いいたします。
河野知事	今日は大変御多用のところを御出席いただき、ありがとうございます。日頃より本県の教育行政の振興に御尽力をいただいておりますことに感謝を申し上げます。 年始に発生した能登半島地震により亡くなられた方々に対し、謹んでお悔やみ申し上げます。あれから1ヶ月が経過しましたが、避難所生活は続いています。避難所等では、福祉の専門職の方が健康管理に当たっていらっしゃいます。 大きな衝撃が加わると、一人一人の生活に精神的にも身体的にも大きな影響を与えています。熊本地震で亡くなられた方が270名、うち直接死が55名、関連死が215名でした。改めてそういう数字だったということをこの前確認したのですが、その中でも避難所生活等に問題を抱えているということは、それぞれの局面が変化する中で、命を支えるためには何が必要なのかということを改めて考えたところでございます。 本日は「命を大切にする教育の推進」これはとても重いテーマであります。残念ながら昨年、全国の児童生徒の自殺者が514名と過去最高となりました。これを受けとめながら、本県におきましても、該当者がいるということ。ただ、そこまでの厳しい状況にはなっていませんが、大きく急増するような状況ではないにしろ、大切な命が絶たれているということを重く受け止め、少しでも関係者がサポートして、取組みを是非とも進めていきたいという思いでございます。 もちろん本人の命が一番大切ですが、その周りの家族や学校、関係者のショックも極めて大きいものがあります。何とか力を合わせて支えるセーフティネットの充実を図ることができれば、そういう思いで意見交換をさせていただければと思います。 どうぞよろしくをお願いいたします。
司会	ありがとうございました。 本日の議事は、命を大切にする教育の充実について、でございます。 事務局から3点説明がございました。 テーマの推進について、本県の自殺者数・自殺者数の状況及び自殺対策の取り組みについて、いのちを大切にする教育について、続けてご説明させていただいた後、意見交換に入りたいと思いますので、よろしく申し上げます。

発言者	内 容
みやざき文化振興課	<p>みやざき文化振興課でございます。先ほど、知事の挨拶でも話がありましたが、令和4年のこどもの自殺者数が過去最高の514人となり、メディアでも大きく取り上げられました。</p> <p>国においては、平成18年に自殺対策基本法が施行されて以降、関係機関が一丸となって総合的な取組を実施してきており、令和4年10月には、新たな自殺総合対策大綱が策定されております。</p> <p>このような中、令和4年の児童生徒の自殺者数が過去最高となったことを受けて、こども家庭庁において、「こどもの自殺対策に関する関係省庁連絡会議」を設置し、令和5年6月には、同会議において「こどもの自殺対策緊急強化プラン」がとりまとめられました。</p> <p>この「こども自殺対策緊急強化プラン」においては、「自殺予防に資する教育や普及啓発」、「自殺リスクの早期発見」等が掲げられており、関係機関が連携し、こうした施策に取り組むこととなっております。</p> <p>県といたしましても、これまでも関係機関が連携して、様々な取組を実施してきたところであり、教育現場においては、「いのちを大切にす教育」の取組の中で児童生徒への指導や教職員に向けた研修などを実施してきたところでもあります。</p> <p>しかしながら、近年、コロナ禍における行動制限や、SNSの普及価値観の多様化など、こどもをとりまく環境が大きく変化しているところであり、教育現場における対応も難しくなっているところでもあります。</p> <p>そのため、この総合教育会議において、委員の皆様、それぞれのお立場から、様々な御意見をいただき、今後の施策の参考とさせていただきます。今回「いのちを大切にす教育の推進」をテーマとさせていただいたところです。</p> <p>委員の皆様におかれましては、是非、忌憚のない御意見をいただきたいと思いますと考えております。よろしく申し上げます。</p> <p>説明は以上です。</p>
司会	<p>続きまして、本県の自殺者等の状況につきまして、福祉保健課から説明いたします。</p>
福祉保健課長	<p>資料1ページを御覧ください。</p> <p>自殺者の状況、自殺対策の取組について御説明いたします。</p> <p>本県はかねてから人口当たりの自殺者数が全国でもかなり高い状況であり、最新の数字である令和4年では、全国でワースト3となっております。</p> <p>年代別に自殺者数を見ますと、資料1の(1)のとおりとなります。</p> <p>①は、70代・80代の高齢者が多いですが、19歳以下もある程度いるという状況です。</p> <p>右側のグラフは、それぞれの年代の10万人当たりの自殺者である自殺死亡率、同様に、70代以上の高齢者が多いという状況となっております。</p> <p>下の段の(2)は、若年層を取り出した数字となります。</p> <p>①は全国の小中高生の自殺者数の推移であります。一番右側から3番目。令和2年から4年にかけて増加し、直近の確定値では、高校生でより顕著となっております。</p> <p>また資料にはございませんが、先週金曜日に令和5年の暫定値が出ております。507人というふうに警察庁、厚生労働省から発表されております。依然として高い数値です。</p> <p>②では本県を住所地とする19歳以下の自殺者数の推移を示しております。もともと本県では、一桁ということもあり、振れ幅が大きく見えてしまっていますが、ここ3年間は7～9人と、その前の3年間と比べると多いという状況でございます。</p>

発言者	内 容
福祉保健課長	<p>次のページをご覧ください。</p> <p>この表は厚生労働省の自殺対策白書から抜粋したものでございます。全国の小中高生の自殺において、主な原因、動機をグラフ化したものでございます。</p> <p>1つ御注意いただきたい点は、自殺は複数の原因や動機が折り重なって追い込まれていくということがわかっており、1人1つと限定されているものではございません。</p> <p>本グラフは、警察が遺書等の生前の言動を裏付ける資料や、家族等の証言から、考える場合を含め、1人につき最大4つまで選択式で計上したものとなっております。この前提でこのグラフを見ますと、緑色の「学校問題、学業不振」とか、「進路」に関する悩みに幅が大きいようですが、他にも、「家庭問題」「健康問題」と幅広い背景があるということがおわかりいただけるかと思えます。</p> <p>次のページをご覧ください。</p> <p>3「自殺予防の取組」について記載をしております。</p> <p>平成18年に施行されました、自殺対策基本法を受けまして、本県でもこれまで4期に渡って「宮崎県自殺行動対策計画」を策定し、施策を推進して参りました。</p> <p>現在、来年度スタートする第5期計画を策定作業中でございます。</p> <p>その素案の概要を示しております。</p> <p>青い字でお示ししておりますのはそのうち、特に若年層に関係の深いものになります。</p> <p>本県における自殺対策につきましては、従前より①の基盤強化をベースに、②から④にあります一次予防、二次予防、三次予防の3つの段階で整理しております。</p> <p>①の基盤強化については、5ページをご覧ください。</p> <p>本県の自殺対策推進体制を記載しております。</p> <p>自殺対策は非常に幅広いため、左側にありますとおり、医療、福祉、教育、法律、経済、労働、報道といった各分野の団体に、自殺対策推進協議会に参画いただき、御助言、御協力をいただきながら施策を進めているところでございます。</p> <p>各保健所圏域毎にも関係機関に加わっていただき、協議会を設置しています。</p> <p>また右側の方、県においても、部局を越えた取り組みを進めております。教育庁や県警察と連携して取り組んでおります。</p> <p>また、資料の一番下になりますが、全市町村においても自殺対策行動計画の策定が義務づけられているところです。策定にあたっては、各協議会等で意見交換が行われているところです。</p> <p>資料3ページに戻ります。</p> <p>計画の続きになりますが、②の一次予防に、広く県民への普及啓発や人材育成に関するものであり、悩みを持つ方や、その身近にいる方に向けた普及方法、相談窓口等の周知に加え、医療・福祉の専門職や教育関係者向けの研修を盛り込むこととしております。</p> <p>次のページをご覧ください。</p> <p>二次予防は、ハイリスクにある方の早期発見や相談対応に関する取り組みであり、相談会の実施や、夜間の電話、インターネットを活用した相談対応、内科などのかかりつけ医がうつ病等が疑われる患者を診察した際に精神科医と連携を図っていただく、連携強化などを記載しています。</p> <p>④の三次予防は、自殺未遂者や自死遺族に対する支援であります。</p> <p>自殺未遂があり、本人または家族から情報提供を得られた場合、各保健所で共有してフォローアップを行っているほか、自殺で親族を亡くした遺族が気持ちを分かち合う「つどい」の開催、著名人の自殺等に関し、適切な自殺関連報道を行うよう呼びかけるといった内容を盛り込んでおります。</p> <p>計画では現在パブリックコメントを終えたところであり、2月定例県議会で計画案を御説明した後、策定とする予定です。</p> <p>私からは以上です。</p>

発言者	内 容
<p>人権同和教育課長</p>	<p>人権同和教育課でございます。お手元の資料をお開きください。「いのちを大切にする教育の推進について」説明をさせていただきます。</p> <p>まず1番の「背景」です。</p> <p>先ほどから説明がございますように、警察庁・厚生労働省の自殺統計によりますと、令和4年の児童生徒の自殺者数は全国で過去最多となり、大変憂慮すべき状況であります。</p> <p>本県におきましても、何よりも大切なこどもの命を守るため、学校や家庭、地域、関係機関等が相互に連携・協働しながら、子供たちに、自他の「いのち」がかけがえのないものであることを理解させる取組を、総合的に推進しているところです。</p> <p>そこで、県教育委員会からは、学校における取組について説明いたします。</p> <p>まずは(1)の年間を通じた「いのちを大切にする教育」の推進です。</p> <p>県教育委員会では、今年度、県教育振興基本計画を新たに策定いたしました。その中で、施策の1としまして、「いのちと人権を守り、豊かな心を育む教育の推進」を掲げております。</p> <p>これまでも各学校におきましては、命に関わる様々な取組がなされておりますが、改めて各学校での取組を整理し、命を大切にすると下地づくりの授業を、年間を通じて計画的に取り組んでいくことで、こどもたちに自他の命を大切にするとする力を身につけさせたいと考えております。</p> <p>次に(2)の宮崎県いのちの教育週間についての取組です。</p> <p>夏休み明けにこどもたちが元気に、笑顔で登校できるように、夏休み前の7月1日から7日を「宮崎県いのちの教育週間」と設定しております。</p> <p>小学校では全校一斉に命の尊さや大切さについて考える道徳の授業を行ったり、中学校では、助産師や犯罪被害者による命について考える講演を実施したり、高等学校では地震や災害から命を守る防災訓練を行ったりするなど、この週間を中心に命について考える取り組みを重点的に行うことで、県下一斉に命の大切さについて改めて考える機会としております。</p> <p>裏面になります。</p> <p>次に、(3)の児童生徒に対するSOSの出し方に関する教育の推進です。</p> <p>内容といたしましては、こどもたちが不安や悩みを感じたときに、誰にどうやって助けを求めればいいのか、どのような相談窓口があるのかを具体的に学ぶ授業になります。</p> <p>相談窓口を知っていても、相談する勇気が持てないこともあることから、辛いときや苦しい時に助けを求めることは当たり前のことであるとともに、当たり前の事も同時に伝えて相談しやすい雰囲気づくりに努めているところであります。</p> <p>次に、(4)の教職員に対する児童生徒のSOSの受けとめ方に関する研修の実施です。</p> <p>せっかくこどもたちが勇気を出して相談をしても、それに気づけないといけませんので、こどもたちと日々接している教職員がこどものSOSを察知し、それを受けとめ、適切な支援につなげるための資質向上研修を実施しております。本年度はすべての公立学校の担当者等を対象に研修動画を用いた研修を実施しております。研修後のアンケートでは98.8%、ほとんどの先生方が参考になったと回答をしています。</p> <p>他にも、(5)のスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの配置派遣に取り組んでおります。</p> <p>こどもたちが抱えている様々な課題等に対応するため、各公立学校へのスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等の専門スタッフの配置派遣体制を充実させ、一人一人に寄り添った対応に努めているところであります。</p> <p>最後になりますが(6)の相談窓口の充実です。</p> <p>本年度は、これまでの電話や対面での相談に加えまして、児童生徒に、より相談しやすい窓口として、SNSを活用した相談など、多様な相談体制を整備し、悩みや不安の早期発見、解決を図っているところであります。取組の課題といたしましては、(3)の</p>

発言者	内 容
人権同和教育課長	<p>SOSの出し方に関する教育の実施率100%を目指していくとともに、(5)の専門スタッフの配置派遣について、社会的な課題への対応も含め、各学校からのニーズが非常に高まっており、今後さらに取組の拡充と人材の確保が必要であることなどが挙げられます。</p> <p>今後も引き続き関係の皆様を含め連携協働しながら、宮崎県の宝であるこどもの命をしっかりと守っていきたいと考えております。</p> <p>以上です。</p>
司会	<p>ありがとうございました。事務局からの説明は以上でございます。</p> <p>委員の皆様方、御意見等ございましたらお願いします。どなたからでも結構でございます。</p>
島原委員	<p>まず大変重い問題をこの場で取り上げて、しっかり正面から協議できることは素晴らしいことだと思います。教育委員会の中でも、問題について共有することをしっかりやっていかなければならないことを常々話し合っており、こういう場は大切だと思います。</p> <p>それで、この問題は非常にいろんな要因も含めて複雑な問題であり、単純化して話をするわけにはいかないと思うんですが、1つずつ解きほぐして、広げていければいいなという思いです。</p> <p>まず、これは学校だけではなくて、社会的な問題だと思います。実際に企業は人材に大きな問題を抱えています。人材をどう育てるか、会社の中で意欲を持って取り組む人たをどう把握するかということが大きな課題になっています。</p> <p>その視点からちょっとお話をさせていただくと、この命を育むということに繋がるのかなと思います。</p> <p>まず、最近ウェルビーイングと言われますけども、身体的・精神的・社会的な幸せ、その根底には主体性が言われています。</p> <p>自分で決定して自分で実行する力が、落ちてきています。主体性の低下でしょうか。</p> <p>自己肯定感、自己承認が低いために、何か社会的な不安みたいなことが背景にあるんじゃないかなと思っています。</p> <p>学校教育の中で、いろんな取組をやられてることは大事だと思いますが、自分の存在が認められているという事が一番大切だと思います。</p> <p>宮崎県の教育は孤立しないのではないかと思います。</p> <p>いのちを大切に作る根底に、こういったこともあるのではないかなと思います。</p> <p>以上です。</p>
知事	<p>全国のデータで男女比を教えてくださいませんか。本県の自殺された方の分析はありますか。</p>
福祉保健課長	<p>男女比というのはわかります。調べて後ほど回答いたします。</p>
柳委員	<p>県の「いのちの教育週間」は平成30年度から続いていて、定着していると思います。そして学校では、例えば小学校は1年生から6年生まで、いのちについて考える、SOSの出し方などいろいろな取組がされています。</p> <p>私は「いのちの教育週間」を教育現場だけでなく、全県民、全世代に広げてもらいたいと思います。</p>

発言者	内 容
	<p>特に宮崎県は高齢者の自殺が多いということなので、元気な方は働きたい方もいるし、社会生活に関わりたくない人もいます。いろんな「輪」が必要だと思います。</p> <p>不安や悩みがあるときはどうすればいいのかを考慮しながらでも、全県民で考える機会があったらいいなと感じました。</p>
福祉保健課長	<p>ありがとうございます。</p> <p>全世代対象ということでは、9月の第1週に自殺予防週間が全国的にございます。</p> <p>3月の自殺対策強化月間ということで、いろんなキャンペーンをやっておりますが、まだ周知が行き渡ってないところもあると思います。</p> <p>命の大切さを教育週間と併せて、県民にPRしていきたいと思います。</p>
柳委員	<p>言葉も自殺対策でなく、一人一人お互いの命を大事にしましょうとした方がいいのではないかと思います。</p>
木村委員	<p>保護者の立場としても、辛いテーマです。お願いしたいのは、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの配置です。現在、1つの学校に1人配置とか、地域の学校に何人が配置していただくと、子どもたちも相談しやすいと思います。</p> <p>もっと子どもが相談しやすい環境づくり、家庭訪問等をしてもらううえで、スクールソーシャルワーカーの配置・増員を是非、御検討していただければと思います。</p>
人権同和教育課長	<p>配置の充実・拡充について検討しているところです。</p>
松山委員	<p>宮崎県の自殺予防取組として、宮崎県子どもSNS相談の運用による相談等があると思うんですけど、先日拝見して、素晴らしくてわかりやすいと思いました。</p> <p>入れたらすぐにチャットの機能が出て、意外に相談できる環境だなと感じました。</p> <p>その中でまず一次予防事前対応として、価値を説明する教育というのを丁寧に、進めていただいているっていうのは十分理解できますが、その教育の成果を評価するための評価指数を導入されてはいかがでしょうか。</p> <p>新たな評価指数を導入することで、教育機関や、教育者の取組の透明性を向上させ、持続的な改善が促進されるのではないかと感じます。</p> <p>教育の進捗っていうのを定期的にモニタリングし、評価体制を確立することで、教育目標の達成度や生徒のフィードバックをもとにまた必要に応じてそのプログラムを変更・改善していくということも必要ではないかと思います。</p>
人権同和教育課長	<p>評価指数に関しましては、関係協議会と福祉の方で協議をさせていただきながら、計画を進めていきたい。各学校におきまして、いのちの教育の推進にあたって、SOSの出し方教育や、先生方の受けとめ方教育については、状況を把握しておりますので、指標につきましては、今後活用を図ってまいりたいと思います。</p>
福祉保健課長	<p>先ほど知事からご質問のありました514人の内訳ですけれども、男性が293人、女性が221人でした。</p>

発言者	内 容
教育長	<p>松山委員からSNSの相談資料、データの活用、不断の見直しについてご指摘いただきました。</p> <p>SOSの出し方に関する教育は新しく、平成30年頃から行っています。自殺対策については、根本的なシステムの1つだと思っていますので、しっかり根づかせていくことが大事だと思います。</p> <p>子どもたちの不安や悩み、それは当然のことだと思います。それを子どもたち自身が自然なことであるという認識を持って、相談をすることによって低減できるということを学ぶ教育、ある程度窓口を知っておくということが大事だという教育、この辺りについて取り組み始め、これから成果が出てくると思うので、しっかりやっていきたいと思っています。</p>
柳委員	<p>自殺の原因・動機ですが、全国の傾向ですが、進路や学業不振が多いということを感じました。やはりその点を手厚くしていくことが大事になってくると思いました。</p> <p>また、女子高校生のうつ病や精神疾患が多いですが、小・中で踏みとどめる。そこまで行く前に何か手を打つ必要があるのではないかと思います。</p> <p>数値はどこを考えていかなければならないかを教えてくれると思います。</p>
知事	<p>私も同じように感じておりました。男性の場合は学業不振、女性はいじめ・人間関係・精神疾患が多く、男女で顕著に差がみられます。</p> <p>1ページの(2)の自殺者の数字は、全体として高校生が多くなっています。この3年間上がっておりますが、比較的宮崎は全国的に見ても抑えられている方ではないかと思えます。これは、いのちの教育が功を奏していると思えます。</p> <p>宮崎の自殺者数が多いのは、高齢者層が多いという問題もあります。</p> <p>直近のコロナの影響もあると考えられますが、SNSの影響が大きいと思われます。今後、SNS対策をどうするか、SNS相談の充実も考え、対策のメリハリをどうするかが課題です。</p>
福祉保健課長	<p>電話相談など、有効ではありますが、人材の確保が難しい状況です。</p> <p>来年度に向けて、相談体制の強化を検討しているところでございます。</p>
木村委員	<p>学校での相談体制ですが、教員年数の長い方や様々な先生がいらっしゃいます。各学校できちんと対応をお願いしたいと思います。</p> <p>また、教職員全体に対する周知徹底をお願いしたいです。</p>
人権同和教育課長	<p>御意見を受け、しっかりと対応していきたいと思っています。</p>
教育長	<p>子どもたちの小さな変化を学ぶ研修を行いたいと思います。</p>
柳委員	<p>担当者研修を実施してもそれで終わりではなく、持ち帰って全ての教職員に周知徹底をされる必要がありますね。</p> <p>私の知っているスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーは、進んで宮崎市主催の研修に来られていました。県の研修は年に2回行っていると聞きましたが、資質を高めるための研修の機会や情報提供を行っていく事が大事だと思います。</p>

発言者	内 容
人権同和教育課長	オンデマンドの研修を各学校で行うなど、これからも工夫していきたいと思います。
島原委員	学校に来られない児童生徒でも、遅れが生じないように、フリースクールなど、こどもたちのために学ぶ場を考えていく必要があると思います。県外に視察に行った学校などは、フリースクールと学校が協調しながらやっていました。
知事	学校現場でこどもたちを支える先生達もしっかりしていただきたいと思いますが、自殺や心の問題での休職者が増えているくらい先生達の心のデータも心配です。実態はどうですか。
教育長	教職員課が毎年メンタルダウンの休職を分析しています。相談窓口やカウンセリングも行っています。 メンタルダウンが増えていますが、デリケートな問題でもありますし、踏み込めないところもあるので、相談窓口を準備しています。 何が原因なのか専門的な分析を来年度しようと、準備を進めています。
司会	しっかり原因を分析し、教育委員会と知事部局が連携し様々な対策を進めていきたい と思います。SNSの対策、SWやSSWに加えて相談できる人的確保、いろんな問題 提起があると思います。 最後に知事に御挨拶をいただきます。
知事	いのちを守ることは最重要課題だと思います。 本県はいい方ではないかと思いますが、さらに取組を進めていく必要があると思いま す。 学校ではいのちの教育が功を奏してきている。もっとリスクの高いところをどうする べきか考えていかななくてはならない。 SNSの対策をどうするか、SWやSSWに加えてこどもたちが頼れる相談体制の充実 も大切です。さらなるサポート体制を進めていきたいと思います。
司会	以上で総合教育会議を終了いたします。